科 目 名 （英語名）	メディア論 A (Media Studies)	科目コード 25LA35	（ふりがな） 担 当 者	（さとう　ちひろ） 佐藤　知条	専任・非常勤 専任

2 単位	開講期	前期	授業方法	講義

［履修条件、準備等］
自主的に学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎する。

［授業の具体的到達目標］
情報やメディアといった視点から社会を把握し，分析することができるようになる。
現代社会の課題について自ら考え，解決に向けて行動できる能力を養う。

［授業の概要］
情報通信技術の進歩や発展に伴い私たちの生活やコミュニケーションのあり方が変化している。本講義ではさまざまなメディアが私たちの生活や思考様式をいかに変えたのかを歴史的に概観するとともに，将来のメディア活用の課題点について検討する。

［授業計画］

1 回	イントロダクション：メディア論の視座
2 回	個人の生活と情報技術 (1) 情報技術の日常生活への浸透
3 回	個人の生活と情報技術 (2) 情報技術の利用をめぐる課題
4 回	メディアの歴史と人間の社会 (1) 言語以前－文字の誕生
5 回	メディアの歴史と人間の社会 (2) 漢字の登場－紙の実用化
6 回	メディアの歴史と人間の社会 (3) 活版印刷－電気技術の実用化
7 回	メディアの歴史と人間の社会 (4) 無線技術・ラジオの登場
8 回	メディアの歴史と人間の社会 (5) 新聞の普及
9 回	メディアの歴史と人間の社会 (6) テレビの誕生
10 回	メディアの歴史と人間の社会 (7) マスメディアと 20 世紀日本のメディア文化
11 回	メディアの歴史と人間の社会 (8) コンピュータの登場と発展
12 回	メディアの歴史と人間の社会 (9) インターネット・携帯電話・スマートフォンの登場
13 回	メディアとパブリック・アクセス
14 回	メディア・リテラシー
15 回	メディアと教育
試験等	以下のとおり。

［成績評価］
レポート 50%：授業中に紹介する参考文献（本学図書館に蔵書あり）を読み，まとめる趣旨のレポートを課すので，各自で自主的に読み進めておくこと。
平常点 50%

［準備学習（予習・復習等）の内容］
講義資料は事前に公開することがある。そのときは各自で印刷して持参すること。

	書　　名	著　　者	出 版 社
テキスト			
参考文献	21 世紀メディア論	水越伸	放送大学教育振興会

［備考］2 名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、オフィスアワー等
上記以外の参考文献：ハロルド・イニス『メディアの文明史』(新曜社，1987 年)，マーシャル・マクルーハン『メディア論』(みすず書房，1987 年)，ウォルター・J. オング『声の文化と文字の文化』(藤原書店，1991 年)，グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門』(作品社，1999 年)，ピエール・ブルデュー『メディア批判』(藤原書店，2000 年)，アレッサンドロ・マルツォマーニョ『そのとき，本が生まれた』(柏書房，2013 年)，ローター・ミュラー『メディアとしての紙の文化史』(東洋書林，2013 年)。これ以外は授業中に適宜紹介する。

科 目 名 （英語名）	メディア論 B (Media Studies)	科目コード 25LA35	（ふりがな） 担 当 者	（さとう　ちひろ） 佐藤　知条	専任・非常勤 専任

2 単位	開講期	後期	授業方法	講義

［履修条件、準備等］
自主的に学ぶ意欲のある学生の受講を歓迎する。

［授業の具体的到達目標］
情報やメディアといった視点から社会を把握し，分析することができるようになる。
現代社会の課題について自ら考え，解決に向けて行動できる能力を養う。

［授業の概要］
情報通信技術の進歩や発展に伴い私たちの生活やコミュニケーションのあり方が変化している。本講義ではさまざまなメディアが私たちの生活や思考様式をいかに変えたのかを歴史的に概観するとともに，将来のメディア活用の課題点について検討する。

［授業計画］

1 回	イントロダクション：メディア論の視座
2 回	個人の生活と情報技術 (1) 情報技術の日常生活への浸透
3 回	個人の生活と情報技術 (2) 情報技術の利用をめぐる課題
4 回	メディアの歴史と人間の社会 (1) 言語以前－文字の誕生
5 回	メディアの歴史と人間の社会 (2) 漢字の登場－紙の実用化
6 回	メディアの歴史と人間の社会 (3) 活版印刷－電気技術の実用化
7 回	メディアの歴史と人間の社会 (4) 無線技術・ラジオの登場
8 回	メディアの歴史と人間の社会 (5) 新聞の普及
9 回	メディアの歴史と人間の社会 (6) テレビの誕生
10 回	メディアの歴史と人間の社会 (7) マスメディアと 20 世紀日本のメディア文化
11 回	メディアの歴史と人間の社会 (8) コンピュータの登場と発展
12 回	メディアの歴史と人間の社会 (9) インターネット・携帯電話・スマートフォンの登場
13 回	メディアとパブリック・アクセス
14 回	メディア・リテラシー
15 回	メディアと教育
試験等	以下のとおり。

［成績評価］
レポート 50%：授業中に紹介する参考文献（本学図書館に蔵書あり）を読み，まとめる趣旨のレポートを課すので，各自で自主的に読み進めておくこと。
平常点 50%

［準備学習（予習・復習等）の内容］
講義資料は事前に公開することがある。そのときは各自で印刷して持参すること。

	書　　名	著　　者	出 版 社
テキスト			
参考文献	21 世紀メディア論	水越伸	放送大学教育振興会

［備考］2 名以上の複数担当者、マルチメディアの利用、オフィスアワー等
上記以外の参考文献：ハロルド・イニス『メディアの文明史』(新曜社，1987 年)，マーシャル・マクルーハン『メディア論』(みすず書房，1987 年)，ウォルター・J. オング『声の文化と文字の文化』(藤原書店，1991 年)，グレアム・ターナー『カルチュラル・スタディーズ入門』(作品社，1999 年)，ピエール・ブルデュー『メディア批判』(藤原書店，2000 年)，アレッサンドロ・マルツォマーニョ『そのとき，本が生まれた』(柏書房，2013 年)，ローター・ミュラー『メディアとしての紙の文化史』(東洋書林，2013 年)。これ以外は授業中に適宜紹介する。